

文化的景観保全に係る地域社会の協働に関する分析

熊本大学工学部

学生会員 ○野原浩大朗

熊本大学政創研

正会員

田中尚人

1. はじめに

近年、地域の特徴ある風景や文化が開発の中で失われ、固有の風土を示すものが注目されるようになった。また、持続的な地域づくりを行うために官民一体となった協働が重要視されるようになってきている。

2005年の景観法施行に伴い文化財に新しく文化的景観という枠組みができた。これは行政と地域住民の協働による持続的な地域づくりと同義であると筆者らは考える。そこで、本論文は文化的景観保全を対象として地域社会の協働の構造を可視化し、協働の要件を分析することを目的とする。

2. 文化的景観保全の概要

本章では文化的景観保全に係る制度と九州において重要文化的景観に選定された9ヶ所を整理した。

(1) 文化的景観保全に係る制度

文化的景観保全の一般的な流れは、景観計画策定と文化的景観保存調査を行い、文化的景観保全に必要な各種法令を定め、文化的景観保存計画を策定する。その後、地元の同意を得て、選定の申出を行う。重要文化的景観(以下、重文景と略す)に選定された場合は、文化的景観保全に係る取り組みを各自治体で行う。

また、重文景は選定区域が指定される。区域内における土地利用や土地の改変の行為は各種法令で規制される。九州内の各自治体が定めた一般的な法令を表-1にまとめ、選定区域を例として山都町白糸台地の選定区域図を図-1に示した。

表-1 重文景に関する法令一覧

各種法令
自然公園法
文化財保護法
景観法
森林法
道路法
河川法
砂防法
急斜傾斜の崩壊による災害の防止に関する法律
農地法
農地振興地域に関する法律
農業振興地域の整備に関する法律

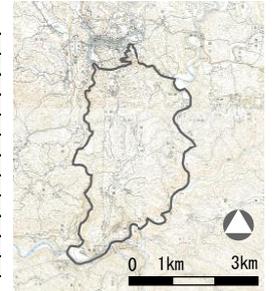


図-1 山都町の選定区域

(2) 重文景選定地の概要

2011年11月現在全国で29件の地域が重文景に選定されており、九州では9件選定されている。表-2に九州における重文景の概要をまとめた。

(3) 重文景選定要件に関する分析

1) 選定までの期間に関する分析

表-2より景観計画策定から重要文化的景観選定までの期間が200日を基準として分類すると200日未満の自治体は平戸市、小値賀町、天草市、佐世保市、五島市の5自治体であり、200日以上自治体は日田市、山都町、唐津市、豊後高田市の4自治体となった。期間が200日以上自治体には共通して国内の世界遺産暫定リストに掲載してある自治体であった。

2) 地理的要件に関する分析

全国的には海域を含まない選定地が多い中、九州内の重要文化的景観選定地の特徴としては、海域が選定範囲に含まれている地域は平戸市、五島市、天草市、佐世保市であり、その中で島を含む選定地は平戸市、小値賀町、佐世保市である。島全域が選定されたのは重文景で佐世保市黒島と五島市久賀島のみである。

表-2 九州の重要文化的景観の諸元

名称	自治体	選定年月日 (答申年月日)	追加選定年月日	景観計画策定日	選定面積 (ha)	選定基準	地域内人口
小鹿田焼の里	大分県日田市	平成20年3月28日	平成22年2月22日	平成19年9月27日	14.1(選定), 224.7(追加) 計 238.8	=(1.5, 8)	-
通潤用水と白糸台地の棚田景観	熊本県上益城郡山都町	平成20年7月28日	平成21年7月23日 平成22年2月22日	平成20年4月1日	63.9(選定), 73.8(追加1) 468.1(追加2), 計 605.8	=(1.3, 6)	609
藤野の棚田	佐賀県唐津市	平成20年7月28日		平成20年1月31日	400.9	=(1.5)	231
平戸島の文化的景観	長崎県平戸市	平成22年2月22日	平成22年8月5日	平成21年2月27日	1105.6(選定), 349.6(追加) 計 1455.2	=(7, 8)	3,279
田染荘小崎の農村景観	大分県豊後高田市	平成22年8月5日		平成22年1月20日	92.0	=(1.8)	-
小値賀諸島の文化的景観	長崎県北松浦郡小値賀町	平成23年2月7日	平成23年9月21日	平成21年12月21日	313.9(選定), 810.4(追加) 計 1124.3	=(3, 8)	1,856
天草市崎津の漁村景観	熊本県天草市	平成23年2月7日		平成21年3月26日	159.9	=(4, 7, 8)	598
佐世保市黒島の文化的景観	長崎県佐世保市	平成23年9月21日		平成22年9月9日	475.5	=(1)	538
五島市久賀島の文化的景観	長崎県五島市	平成23年9月21日		平成22年1月20日	3881.1	=(1, 8)	451

3. 文化的景観保全に係る地域社会の活動の可視化

文化的景観保全に係る地域社会の活動を整理し、活動の流れを把握した。ここでは、紙面の都合上山都町白糸台地のみを記載する。

(1) 山都町白糸台地の概要

図-1 に示したように、熊本県山都町に位置する白糸台地は北に低地、東を笹原川、西を千滝川、南を緑川本流の3本の川に囲まれた台地である。地質は大部分が火砕流堆積物であるため侵食に弱く、深い渓谷を形成している。この特徴的な自然環境のなかで棚田が形成され、水を確保するために通潤用水が作られた。

(2) 白糸台地における地域社会の活動の整理

表-3 に白糸台地の文化的景観保全に係る活動を記した。白糸台地では文化的景観保全の取り組みは豪雨災害をきっかけとして始まった。

表-3 白糸台地の取り組みの年表

年	月日	出来事	活動
2005年	6月	豪雨	●山都町農政・文化課、県 協議
2006年	11月		●ため池等整備事業開始
	2月	石垣が崩れる	●文化庁調査官視察 井上氏
	11月		●文化庁・県・町協議 ●庁内調整会議
2007年	12月		●文化庁・県・町協議
	1月		●文化庁・県・町協議、庁内調整会議
	3月		●文化庁・県・町協議、庁内調整会議
	5月		●庁内調整会議
	6月	文化庁事業になる	●文化庁・県・町協議、庁内調整会議 ●熊本県立大学 井出草切り ●庁内調整会議
	7月		●庁内調整会議
	9月	導入期	▲地元協議 ●文化庁・県・町協議 ●政策研究大学院大学藤原教授現地視察 ●保存調査、保存計画書着手
	10月		▲地元協議 ■第1回保全活用委員会 ●文化庁・県・町協議
	11月		●庁内調整会議
	12月		●文化庁・県・町協議、庁内調整会議
2008年	1月	申し出	●文化庁・県・町協議、庁内調整会議 ▲地元協議 ■第2回保全活用委員会 ●景観行政団体に係る県知事の同意 ●庁内調整会議
	2月		▲地元協議 ■第1回 景観セミナー 佐藤氏 ●庁内調整会議 ▲住民説明会 ●山都町景観づくり条例議決 ▲集落調査 ●山都町景観づくり条例施行
	3月	山都町が景観行政団体となる	
	4月	答申	
	5月	選定 通潤用水+11号水路	
	7月	放水が1回10000円に値上がり	
	12月	追加選定期	■第3回保全活用委員会
2009年	1月	申し出	
	3月	棚田が選定範囲から除外	■第1回住民セミナー 鬼倉氏
	4月	文化庁事業になる	●文化庁・県・町協議
	6月		■西日本科学技術が福留氏加わる
	7月	2次選定 津留ヶ淵道、お城一帯	■第4回保全活用委員会
	11月		■第2回住民セミナー 長井氏
2010年	2月	3次選定	
	3月		▲実行委員会設立
	6月	お祭り	■第2回 景観セミナー 長井氏
	7月		■風研デザインサロン『白糸台地の自治とその風景を考えるWS』 ■第5回保全活用委員会 ▲女性部設立
	9月		●文化庁・県・町協議
	11月	体制確立期	●集落ヒョンづくり ■第6回保全活用委員会
2011年	2月		▲自治振興区総会
	4月		●棚田景観プロジェクト会議
	7月	ウォーキング	■風研デザインサロン『文化的景観保全と地域マネジメントに関するシンポジウム』 ■第7回保全活用委員会 ▲白糸台地自治振興区 ■第3回景観セミナー 佐藤氏 ▲集落調査 ■ギエルム先生WS
	8月		
	10月		
	11月		

凡例 ● 行政 ▲ 地域住民 ■ 外部

(3) 白糸台地の協働の可視化

表-3 を基に、白糸台地の文化的景観に係る活動を可視化した結果、活動の主体が大きく変化したのが2007年7月頃、2008年3月頃、2011年7月頃の3断面であった。また、白糸台地の重文景保全活動には、行政内での調整活動と行政主体で地元住民へ説明し、同意を得る「導入期」、選定から追加選定までの「追加選定期」、行政が支援する形で地元住民や外部関係者が主体となって活動を行い、文化的景観保全のための「体制確立期」と3期に分けることができた。

4. 文化的景観保全に係る地域社会の協働の分析

地域社会の活動記録を基にヒアリング調査を行い、協働の要件について考察する。ここでは、山都町教育委員会西氏へのヒアリング調査結果の一部を記載した。図-2 に示したように白糸台地における協働の関係図を作成し、協働に必要な関係主体を分析する。

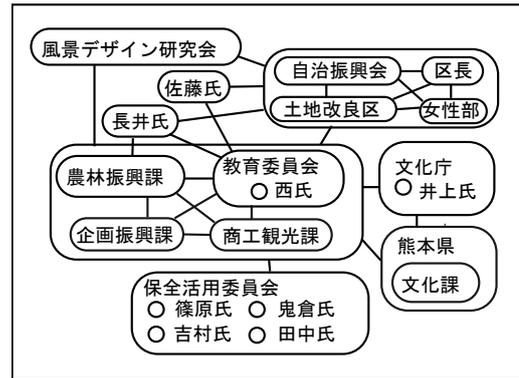


図-2 白糸台地のステークホルダー関係図

5. まとめ

本研究は九州内の重要文化的景観の整理を行った。また、対象地において文化的景観保全活動の整理をし、保全活動の可視化を行った。

謝辞:本研究では、山都町教育委員会西慶喜様、文化庁文化財記念物課鈴木地平様には調査の協力を得た。記してここに謝意を表す。

【参考文献】

- 1)熊本県上益城郡山都町教育委員会:山都町文化財調査報告書, 第2集, 2008
- 2)奈良文化財研究所:文化的景観保存計画の概要(I), 文化的景観資料集成, 第1集, 2010
- 3)野末遥, 亀田真宏, 羽藤英二:紐帯の質的広がりに着目した場のデザインと評価に関する研究, 景観・デザイン講演集, No7, 2011